イノベーションの担い手として活躍を

審査を終えて…

委員各氏からメッセージ

かなりの期間日本の経済状況は下降線をたどっていたが、ここ数年デフレも収まり上向きになりかけていると見える状況にまでなってきたとも思える。しかし、中国経済の低迷、発展途上国やヨーロッパの状況から見ると予断を許さないと思われる。そんな中、切実に求められているのは積極的なベンチャー企業の創出である。若者による新鮮で大胆な発想の面白いベンチャーの構想、展開を考え提案していただきたい、ということで行われているキャンパスベンチャーグランプリ中国は今回第14回を迎えたが、応募件数は97件、その中で書類審査の結果選ばれた15件について、提案者から直接発表をいただき9人の審査委員が評価を行った。

本年度のテクノロジー部門の最優秀賞は山口大学の山中雄城君からの提案「救急搬送における救命率向上のためのICTを活用した新医療体制の提案」、ビジネス部門の最優秀賞は広島大学大学院の伊達文香さんからの提案「途上国の手仕事とファッションショーで目指す女性の自立～Based on I 自分の力で作る服と未来～」であった。

いずれも、自らの研究、体験の中で感じた困難を解決すべく、新しいコンセプトをもとにベンチャー企業を立ち上げ実行しようというものであるが、事業計画なども十分に検討され、実効性が高いものと判断される。また表現力にも素晴らしいものがあった。審査委員ほぼ一致して最優秀賞として推すこととなった。

今回の審査に関与して素直に感じたことを少し述べてみよう。

社会の変化を敏感に感じ取っている若者からの提案であったので、現代社会に適応した面白いものが多かったのは事実であるが、強いて課題を述べると、地域に適応されるこぢんまりとした提案に対し、スケールの大きく世界に広く展開できるような提案が意外に多くなかったということ。それとテクノロジー部門で特に感じることであるが、材料、デバイス、機器、技術、システムなどに絡む特許、あるいはビジネスモデルを押さえることのできる知財に関する配慮が少し足らないものが多いように感じられる。これは昨年度も同じ思いを持った。実際、ベンチャー企業を立ち上げ、激しい経済競争の環境下で生き抜き、成長させるには知財を押さえることが不可欠であるものが多い。

提案された案件の説明を聞くと、自分であればこんな形で知財化を進めるだろうな、と思われるものがいくつもあった。要するに知財化に対する配慮、その手法、あるいはどんなことが知財化できるかということ自体についての認識が少し足らないのかな、逆にいうと大学、高等専門学校などでそのような教育が少し不足しているのかなという感触を持った。これは大学教育に過去携わってきた者としての自分自身に対する反省でもある。

しかし、さすが柔軟な発想が多く期待できるので、是非小さくまとまるのでなく、スタートは例えば自らのいる地域として、次に地域を越えて国内全体、さらには海外にも広がるようなスケールを大きく見た事業展開も視野に入れて欲しいと思う案件もあった。

すなわちベンチャー企業が事業として成功し維持できるというだけでなく、雇用増にも着実につながり、ゆくゆくは日本全体、世界を舞台として展開できるようなものに育つような提案も多いことを期待したい。

今回残念ながら選から外れた方、あるいはこれまで挑戦してこなかった方々には、新しい芽を見いだして、構想を進め来年のグランプリに向けて活動を始め、ぜひ挑戦してほしいと思っている。

いずれにしても日本にはこれまで不足していた、若い方々が積極的にベンチャー企業を起こそうという前向きな発想がたくさんあり、実際可能であればぜひ会社を立ち上げたいという方がたくさんいたのは心強いところであった。多くの方々が応募されたことは地域、日本の将来にとって非常にうれしいことであると思っている。

（島根県産業技術センター所長）

cvg -2015

審査委員長
島根県産業技術センター 所長
吉野 勝美氏

世界への展開 視野に

ICTで新たな発想を

中国総合通信局 情報通信部長 山下 博彦氏

昨年同様に、情報通信技術（ICT）を利活用した福祉、医療、観光、子育てなど幅広い提案をしていただきました。どれも地域や身の回りでおきている事柄を丹念に観察し、どのようにすればそれらの課題解決が図れるか、また、地域に寄与できるかを一生懸命検討されており、どの発表も熱のこもった素晴らしいもので、大変楽しく聞かせていただきました。現在、地方創生が言われていますが、地方の課題は地方で考え実行していくことが求められています。ICTをツールとして使い、新たな発想で地域から起業し、さまざまな課題を克服し地域を元気にしていくことを期待しています。

今後の大きな糧に

中国経済産業局 地域経済部次長 大原 晃洋氏

選考会でのプレゼンテーションはいずれも凛として、初々しく、すがすがしいものでした。中でも、最優秀賞のお二人の着眼点とストーリーは、非常に社会性が高く、そのプレゼンは力強いもので、新しい地平を創り出そうとする気概にあふれるものでした。キャンパスベンチャーグランプリ中国にエントリーされた学生の皆さまは、大きなエネルギーを使いながらも、よい経験をされました。事業プランとその可能性を真剣に考えたこと、具体的に表現し、その結果、応分の評価を獲得されたことは、今後の活動で大きな糧となると思います。皆さまの健闘をたたえたいと思います。

起業イメージが多種多様

産業技術総合研究所 中国センター所長 柳下 宏氏

第14回キャンパスベンチャーグランプリ中国の審査会に参加させていただきました。学生の発想に基づく、企業のイメージは多種多様であり、起業家を夢見た学生の提案が多かった点には、とても感心しました。

一方で、昨年と比較して、テクノロジーを核とした提案が少なく感じられました。

また、当日のプレゼンテーションに関しては、他の技術との違いを明確にして、自分の提案する内容の優位点や今後の課題を、審査委員に分かりやすく説明すると良いと思います。

課題克服して夢実現を

中国電力エネルギア総合研究所技術部長 石川 文雄氏

キャンパスベンチャーグランプリ中国の審査に初めて参加させていただきました。学生の皆さまが日頃の生活の中で興味を持たれたもの、大学・高専などで取り組まれている専門的な技術に基づくもの、さらには今日的な社会問題の解決に真剣に取り組まれたものなどと、本当に幅広い提案があり感心しました。いずれも、学生らしい斬新かつ柔軟な発想から生まれたものと思われますが、技術の実用化や事業化に向けては解決すべき課題もあるように感じました。さらに詳細な検討をされ課題を一つひとつ解決しながら、実現されることを期待します。

関心引くプラン多い

ソアラサービス社長 牛来 千鶴氏

書類審査を経て、1日がかりの2次審査が今年はなぜか「あっという間」に感じました。工夫されたプレゼンテーションが多かったこともありますが、やはり何より、関心を引くプランがそろっていたからと思われます。地域・社会に「きっと必要」と思われるものや、こんなものがあれば「すぐに使いたい」と思えるサービスや商品、また既に具体化している素晴らしい活動もあり、こちらも思わずコメントに力が入りました。資金やどう収益モデルをつくるかなど、おのおのにさまざまな課題はありますが、世の中に必要とされるものであれば必ず実現すると信じています。

ユーザー目線で検討を

広島ガス技術研究所所長 沖本 裕氏

今回も皆さまの柔軟な発想と豊かな表現力に感心しつつ、審査させていただきました。

最近の傾向であるスマートフォンの活用に加え、今回は3Dプリンターやドローン（飛行ロボット）の登場など、端末機能や利用環境の充実とともに提案内容も高度化した印象でした。

ただし発表者目線では親しみやすいシステムでも、想定ユーザーにはどう映るだろうか、また情報セキュリティーや安全・安心対策は十分かなど、広角に検討いただきたい課題もありました。

今回の審査意見を参考に、周囲の協力を得ながら内容を一層充実させ、夢を実現されますことを期待しております。

継続こそが力

中国地域ニュービジネス協議会専務理事 山内 博文氏

大学生、高専生が起業活動に真剣に取り組まれており、またその人数が多いことに感心しております。提案の内容は、ICT、医療、介護、観光、農業、もの作りと幅広く、時代の要請を若者たちが敏感に感じ取っていることが分かります。

プレゼンテーションスキルも年々改善されているようです。テレビ番組の「スーパープレゼンテーション」の影響でしょうか。さて、実際に起業されるとデスバレー（死の谷）が待ち受けておりますが、直面する課題を一つずつ粘り強く乗り越え、大きく飛躍されることを期待します。

継続こそが力です。弊協議会も課題解決に協力いたします。

社会性を感じた

ツネイシパートナーズ社長 芦田 琢磨氏

昨年に引き続き審査会に参加させて頂きました。最終審査での熱いプレゼンテーション、ならびに応募されました全ての皆さまに心より御礼申し上げます。

今年は自らのアイデアで社会貢献したい、身近な社会問題を解決するなど、人と社会のつながりを意識する提案が多く非常に興味深く聞かせてもらいました。

また、既に起業して活動している方、グローバルな視点で社会起業家として活躍している方など、リアルな情熱を実感する好機ともなりました。

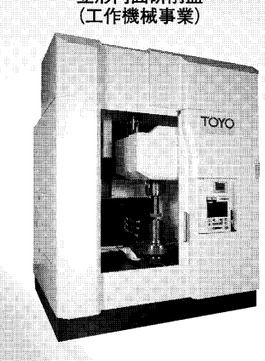
今後はおのおののアイデアをサステナブルなビジネスとするべく精進してください。皆さまのご活躍を期待します。

卓越したものづくりをめざして

Advanced Technologies

80年を超す実績と信頼
内面研削盤のトップブランド（生産累計1万台超）
SKYACTIV-DRIVE※用オイルポンプを生産
ハードコーティングのパイオニア

立形内面研削盤（工作機械事業）

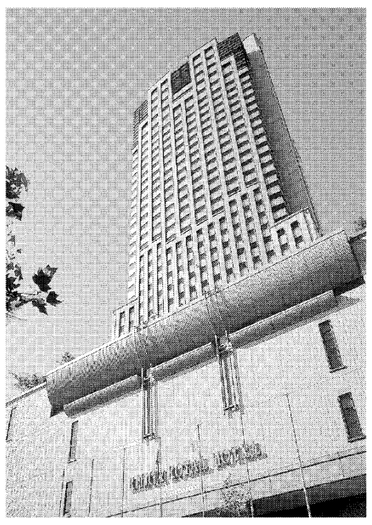


テクノロジーの未来を見つめる
TOYO
トーヨーエイテック株式会社 www.toyo-at.co.jp
本社／〒734-8501 広島市南区宇品東5丁目3番38号 TEL.(082)252-5230 FAX.(082)505-1163
東日本営業所/東京 TEL.(03)5687-0231 東日本営業所/北関東 TEL.(048)572-8160
中部日本営業所 TEL.(0568)88-5313 西日本営業所 TEL.(06)6337-6222
※SKYACTIV-DRIVEは、マツダの新世代高効率オートマチックトランスミッションの呼称です。

低温TiCコーティング（表面処理事業）

SKYACTIV-DRIVE用オイルポンプ（自動車部品事業）

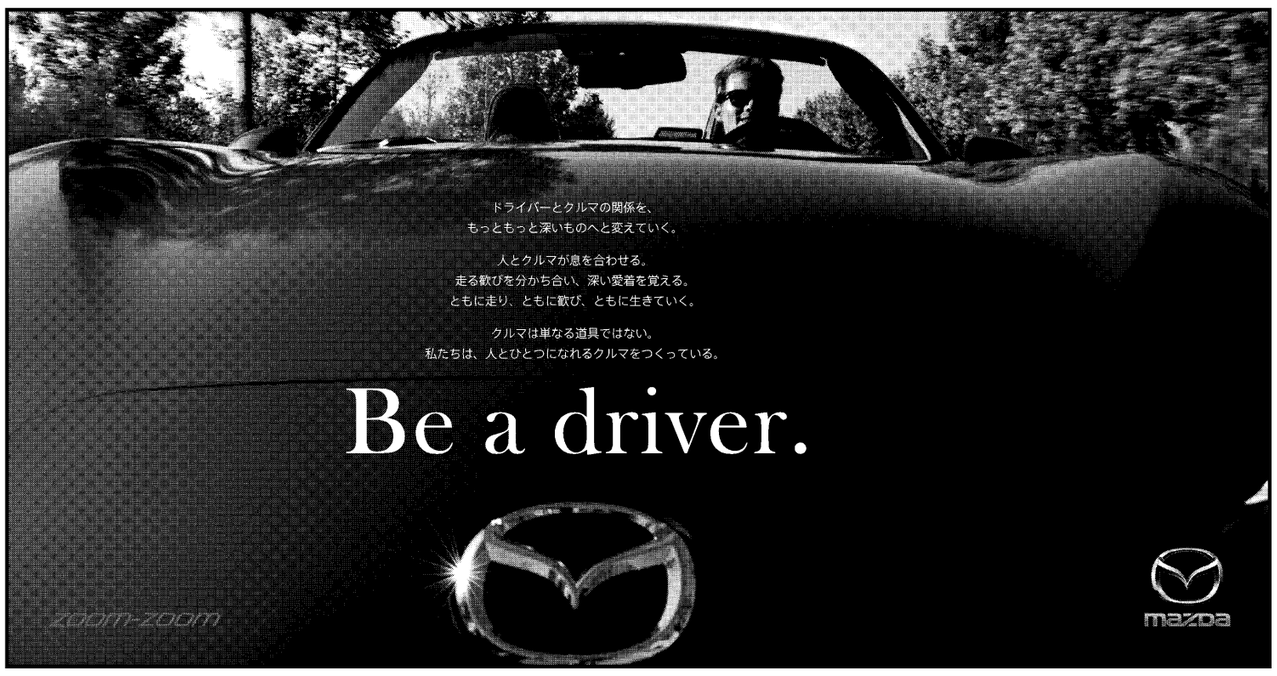
くつろぎのひとつ上。



半世紀以上に亘り、多くのお客様にご愛顧をいただいてまいりました。
皆様への感謝の意を込めて、一層魅力的な商品をお届けしてまいります。
これからも、リーガロイヤルホテル広島をよろしくお願いいたします。

リーガロイヤルホテル広島
スマートフォン・携帯サイトはこちらから
〒730-0011 広島市中区基町6-78
(082)502-1121（代表）
www.rihga.co.jp/hiroshima

人と技術で“夢”づくり

電気設備 空調管設備 水道設備
リニューアル 情報通信 環境・省エネ 防災消防設備

私たちの仕事はお客さまの要望に、確かな技術と信頼で応えること。
これからも未来に残せる“いいしごと”をひとつひとつ行ってまいります。
総合設備エンジニアリング企業
中電工 CHUDENKO
本店／〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
TEL／082-291-7411（代表） http://www.chudenko.co.jp/